

葵

福島県立葵高等学校
 父母と教師の会
 会津若松市西栄町4-61
 TEL (0242) 27-5461
 発行者 丸田 一也
 編集者 磯貝 太

新学期にあたって



校長 高城 友治

四月十日の入学式において新入生二百四十名を迎え、新しい葵高校がスタートしました。

毎年繰り返される学校の営みですが、今年も例年と異なり、感慨深いものがありました。私事ですが、今年度が教員生活最後の年であると言う事が、特別な思いにつながったのかもしれない。三十七年前、坂下高校に新採用として着任したのが始

りでした。

この間、自分自身に様々な変化が起こりましたが、あらためて振り返って見ると、最も変化したのは「生徒を見る目」、視座のような気がします。新採用からの二、三年間は、生徒との年齢差も少なく、弟や妹を見るような「兄の目」でした。生徒の考えに比較的共感しやすく、自然に話すことが出来ました。

その後、四十歳前半くらいまでは、まさに「教師の目」であったように思います。年齢差が大きくなるにつれ、考え方や話題も異なり、簡単に受け返すことは出来ません。生徒との間に線が引かれ、自分自身が教師という立場を強く意識し始めた時期でもあります。

そして、四十歳後半以降は「親の目」となりました。自分の子供が同じ年齢層となったこともあり、まさに、息子や娘を見る思いです。三者面談等においても、親の気持ちに立った発言が増えてきたように思います。

退職を目前とした今は、いよいよ「孫を見る目」に近づきつつあります。それでは、保護者の方々の「生徒(子ども)を見る目」は、常に「親の目」であり変化しないのでしょうか。年を経ても親は親ですから、当然ながら基本的な視座は大きく変化しないものと考えられます。しかし、「親の目は鼻眼目(おやのめはひいきめ)」ということわざがあるように、自分の子供可愛さから、子供の欠点

が目につかなくなってしまう、子供の良い面しか目に入らないという事は往々にして起こります。鼻眼目は親の愛情がなせるわざですから、一概に否定すべきものではないのかもしれない。

しかしながら、高校生ともなると、社会に巣立つ第一歩として色々な進路選択が控えていますし、その結果が一生を左右することにもなります。この点を考えると、「親の目」だけではなく、意識してより客観的な「社会人としての目」で見ることが大切であると思います。保護者の方々の様々な社会的経験に裏打ちされた、「社会人としての目」が「親の目」に大きく加味されてこそ、お

Paramount Team Aoi



会長 丸田 一也

平成二十九年度総会におきましてPTA会長を拝命致しました丸田一也です。PTA会長という大任をおおせつかりまして、正直不安を感じています。しかし、そんな弱音を吐いては始まりません。至らない点もあるかと存じますが、他の役員様、先生方、並びに保護者皆様のご支援ご協力を賜り、今年度のPTA活動を乗り切っていく所存で

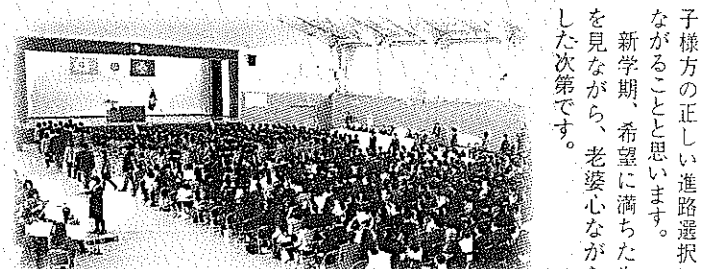
ございますので、どうぞ宜しくお願いいたします。私がPTA活動に関わりだしたのは、ちょうど娘が葵高校へ入学した二年前からでした。娘の憧れの学校でのPTA活動に参加したいという気持ちがかきつかけだっただけで、学校や娘に対し、何か親としてもっと協力出来ることはないだろうかと思案色々な活動に関わってまいりました。いざ活動に参加してみると、さまざまな方の協力で成り立っていることが実感出来、感謝しきれない気持ちで一杯です。これからも精一杯協力していきます。

人間は一人では生きていけない、色々な方々と協力し合い、助けあわないと生き延びれないと私は思います。PTA活動にあてはめ考えてみると、保護者、学校、子供達が良好なコミュニケーションをとれる環境がそこにあるかどうかという事ではないのでしょうか。発言するだけでなく、相手の発言を聞く耳、聞く姿勢をとれるかどうかが重要です。親から子供への一方的な会話、学校から親への一方的な連絡、などの状況は良好なコミュニケーションがとれていない状態とは言えません。保護者から学校へ、大事で大好きな子供達から親へのコミュニケーションは未だ壁があるように感じられますので、三位が双方向で良好なコミュニケーションをとれるチームになれるよう努力してまいります。

私の目指すPTAとは…
Paramount (最高の)
Team (チーム)
Aoi (葵高校)
 今年はこれでいきます!



総会



入学式

子供方の正しい進路選択につながると思います。新学期、希望に満ちた生徒を見ながら、老練心ながら記した次第です。

進路指導部より

「ベクトル」

進路指導主事 渡部 宏

葵高校が生徒、保護者のみなさんに向けて発行している進路情報便りのタイトルです。今年度、月一度程度のペースでその都度有用な情報を提供していきます。

例年、卒業にあたり、どうしても「〇〇大学に入った(落ちた)」「奨学金はもらえる?」「地元で金がかからなくてよかった」といったことだけに終始してしまう方が少なくありません。

もちろん、これらはそれぞれの家庭にとつて欠かせない重要な要素です。それでも、保護者のみなさんには、昨今の社会情勢の冷静な分析と、これからの世代が抱える問題を意識していただき、一度しかない生徒たちの人生を悔いなきものにするために、私たち教職員との信頼関係構築に協力していただきたいと切に願っています。

極度の少子高齢化、大学全入も可能な現在、「どこの学校(大学)・何の仕事」「どれくらい金」ではなく、「どんな社会貢献」「どんな人間性」を優先する生き方が必要とされています。

私たち大人が前者を優先させれば、その分、社会は退廃していくでしょう。後者を優先しようと努力する大人がいてこそ、次の世代も、それに倣って前向きに生きていけるのではないのでしょうか。

「ベクトル」とは数学用語で「方向量」のことです。前向きな社会形成には、みんなの前を向かなくてはなりません。保護者のみなさん、共に手を取り合ってください。まずは「ベクトル」を読んでください。

平成29年度 総会・第一回役員会並びに専門委員会

校内の校が見事に満開になった四月二十二日(土)に生徒活動後援会と併せて新年度の総会が開かれました。議長に山浦啓子さんを選出し議事がおこなわれ、その結果すべての議案が原案のとおり可決されました。また、いくつか質問も出され、校長先生から丁寧な説明がありました。役員改選においては下記のとおり会長・副会長が新たに決まりました。また、前会長の岩本光正さんには顧問としてご指導いただくことも承認され、会の最後に感謝状をお贈りしました。引き続き行われた学年会においては、一学年は三年間を見通した

学習や学校生活について、第二学年は主に科目選択や修学旅行など、そして第三学年は直前に迫った進路についてなど具体的な話が先生方からあり、それぞれの学年において気持ちも新たに子供たちをサポートし励ましていこうという強い思いを感じることができました。連休のなかばの五月二日(火)には、第一回の役員会が行われました。全体会の後に各専門委員会に分かれてそれぞれ委員長・副委員長を選出し、今年度の事業予定について和気あいあいと話し合いました。



全体会



総会



学年委員会(1学年)

平成29年度役員紹介

- ◇顧問(前会長) 岩本 光正
- ◇顧問(校長) 高城 友治
- ◇会長 丸田 一也
- ◇副会長 木崎 茂美※
- ◇副会長 渡部美枝子
- ◇副会長 安藤 和繁
- ◇副会長(教頭) 伊藤 勝宏
- ◇副会長(教頭) 櫻井 克彦
- ◇監査 馬場 範彦
- ◇監査 大堀 勝雅
- ◇監査 遠藤 伝成
- ◇第1学年委員長 小林美保子
- ◇第2学年委員長 遠藤 卓也
- ◇第3学年委員長 山浦 啓子

※生徒活動後援会会長を兼ねる



〈副会長〉 安藤 和繁



〈副会長〉 渡部美枝子



〈副会長〉 木崎 茂美



〈会長〉 丸田 一也

今後の主な行事

- 5月25日(木) 全会津高P連総会・研究大会 (於:喜多方プラザ)
- 27日(土) 保護者対象進路講演会(1学年)
- 6月上旬 登校指導(健全育成委員会)
- 7月12日(水) 合唱コンクール(参観可)
- 9月30日(土) 保護者対象進路講演会(2学年)
- 10月上旬 登校指導(健全育成委員会)
- 11月1日(木) PTA会報(第76号)発行(広報委員会)
- 11月上旬 ふくしま教育週間(授業参観)
- 11月7日(火) 全会津高P連研修会(於:喜多方高校)
- 3月1日(木) PTA会報(第77号)発行(広報委員会)

▼ホームページはこちら

<http://www.aoi-h.fks.ed.jp>

福島県立葵高等学校 検索

